

# 霊山町掛田地区 霊山中学校周辺 (Aエリア)



0.46 $\mu$ Sv/h (1m)  
2.81 $\mu$ Sv/h (1cm)  
土壌: 31,800Bq/Kg



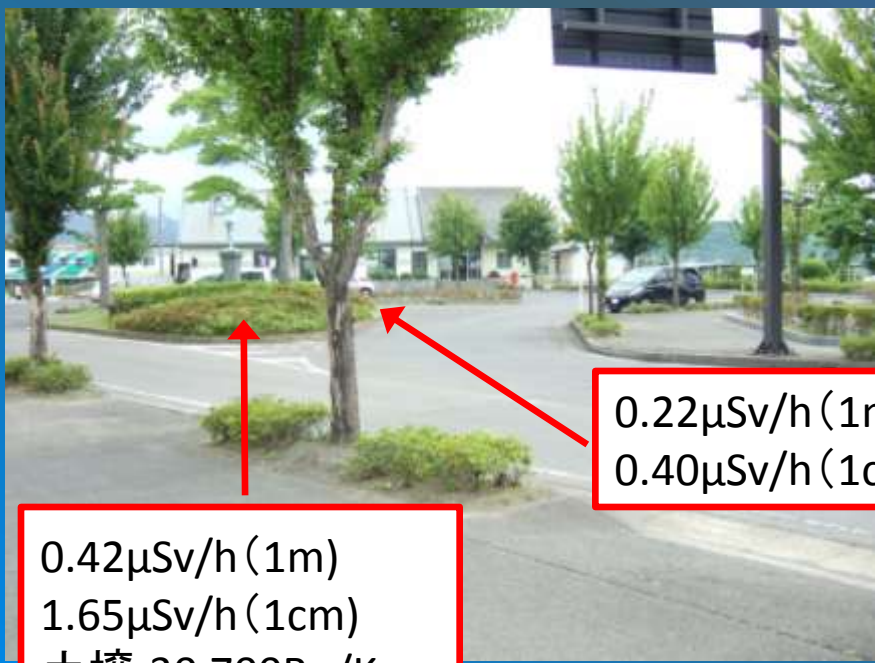
0.22 $\mu$ Sv/h (1m)  
0.19 $\mu$ Sv/h (1cm)



0.44 $\mu$ Sv/h (1m)  
2.3 $\mu$ Sv/h (1cm)

0.3 $\mu$ Sv/h (1m)  
0.66 $\mu$ Sv/h (1cm)

# 梁川町 駅前ロータリー、住宅街など (Cエリア)



0.22 $\mu$ Sv/h (1m)  
0.40 $\mu$ Sv/h (1cm)

0.42 $\mu$ Sv/h (1m)  
1.65 $\mu$ Sv/h (1cm)  
土壌:30,700Bq/Kg



街路樹根元  
1.0 $\mu$ Sv/h (1m)  
5.6 $\mu$ Sv/h(1cm)



梁川駅前児童公園  
0.1 $\mu$ Sv/h (1m)  
0.1 $\mu$ Sv/h(1cm)



0.16 $\mu$ Sv/h (1m)  
0.49 $\mu$ Sv/h(1cm)



# 伊達市長の7月3日定例記者会見

仁志田 昇司  
伊達市長



記者：Aエリアで除染が完了したとのことだが、市民から部分的に再除染を求められた時にはどのように対応するのか。

市長：そのような希望も無い訳ではないが、希望があればすぐ対応するというような単純な話ではない。我々はしっかり除染し、線量管理も行っている。またガラスバッジも着けており、再除染が心配な理由を良く聞くとともに家人にも注意してもらう必要がある。外部被ばく線量は必ずしも空間線量とイコールではなく生活スタイルが関係している。また内部被ばくにも注意する必要がある、外部被ばくより管理が難しいのでWBCによる検査を継続していく。また農作物のモニタリングも継続していくことでマネジメントをしっかりと行っていく。

再除染は必要があれば行うが、そう単純なものではなく、これまでの経験から健康管理のマネジメントを行っていくということが基本的な考え方である。



ご清聴ありがとうございました。